

日本初公開

ジョン・ラーベは訴える

12.1 (日)

南京の地獄

南京の記憶をつなぐ2024
ドキュメンタリー上映/講演



▲背景写真は1937年に設置された南京安全区国際委員会メンバーの写真であり、その左上が委員長であったジョン・ラーベ（1882年～1950年）です。ドイツ・シーメンス社の中国駐在員として約30年に渡って滞在。ナチス党员であったが、南京大虐殺に遭遇し、委員長として民間人の保護活動に尽力した。67歳で死去。

■12月1日 (日)

13:30 開場～14:00 開演

■場所：国労会館・3F 大集会室

(JR 天満／地下鉄扇町下車)

※裏面地図

■参加費 1000 円 (学生 500 円)

■ドキュメンタリー映画 (日本初公開)

『ジョン・ラーベは訴える

—南京の地獄』

(江蘇電視台制作) 50 分

翻訳・解説 松岡 環さん

(銘心会南京／日中平和研究会代表)

■講演

『ドイツにおける極右の増大

—歴史偽造とどう闘うか』

木戸衛一さん (日本平和学会理事)

きど・えいいちプロフィール：1957年生まれ。ベルリン自由大学博士。大阪大学大学院招へい教授。ライプツィヒ大学・ボーフム大学客員教授を歴任。日本平和学会理事。ドイツ現代政治・平和研究専攻。最近の著書に『若者が変えるドイツの政治』（あけび書房、2022年）、『戦争と平和主義』（共著、いのちのことば社、2023年）など。



主催：南京の記憶をつなぐ2024 Tel090-8125-1757

「南京の記憶をつなぐ2024」12月集会に参加を！

▼写真は、南京安全区国際委員会のメンバー。中央ラーベ。

日本初公開 ドキュメンタリー映画

『ジョン・ラーベは訴えるー南京の地獄』

(中国・江蘇電視台制作) 50分

翻訳・解説 松岡 環さん

(銘心会南京／日中平和研究会代表)



▼写真は、焼け落ちたがれきの南京の街



1937年12月13日、日本軍は南京に攻め込んだ。その前後からジョン・ラーベは、南京安全区国際委員会の代表として、欧米のキリスト者や南京大学の米国人教師とともに南京で救済活動に没頭した。ラーベは危険を顧みず、殺戮の嵐の中で日本軍に連行される男たちや凌辱される女性たちを守ろうとした。時には日本の兵士の暴行に立ちはだかり、日本側に抗議を続けた。ラーベは日記に記している。

「私はこれらの残虐行為を自分の目で見なくてはならない。将来目撃者として話すことができるように、このような残忍行為に直面して黙っていることはできない！」

完全ドキュメンタリー版のこの映像は、大部分が事実資料で構成されている。当時の日記資料、写真、映像に基づいてラーベの実像を表した秀作である。私たちは、日本語版を製作し、日本初上映に取り組んだ。ラーベの実像に迫っていて、多くの皆さんと想いを共にできるのではないのでしょうか(松岡：記)。



講演：木戸衛一さん(日本平和学会理事)

『ドイツにおける極右の増大

ー歴史偽造とどう闘うか』

日本とドイツはよく似た近現代史を歩んできましたが、その負の過去について近隣諸国との和解を達成し、地域統合を推進してきたかどうかは決定的な違いです。

しかし、戦後デモクラシーの模範生と見なされてきたドイツでも、ナチ時代を無害化し、人種差別を公然と叫ぶ極右勢力が勢いを増しています。政府が率先して歴史歪曲を進める日本は、彼らのお手本ですらあります。

彼らが権力を握ってしまったら、教育が大きく捻じ曲げられ、司法の独立や報道の自由が脅かされることは明らかです。今こそ、日独市民社会の連帯が求められています。

1938年、クリスタル・ナハトで炎に包まれるユダヤ教会⇒



賛同団体、賛同人になってください！

■賛同団体：南京の映画をみる会しが、日中平和研究会、日本中国友好協会大阪府連合会、「週刊金曜日」読者の会・大阪、グループZAZA、大阪教育合同労働組合、教職員なかまユニオン、銘心会南京

■賛同人：岡田光司、古賀滋、島田潤、田中泉、長崎由美子、中沢浩二、古橋雅夫、森田徹、山田光一、藤井幸之助
(2024年10月現在)

連絡先：南京の記憶をつなぐ2024

Tel 090-8125-1757

■会場：国労大阪会館 地図
(3Fまでの階段昇降機の設備があります)

